

令和3年度 学校評価自己評価表

世羅町立甲山小学校

a ミッション	「世羅がすき、甲山小学校がすき、学級がすき、そんな自分がすき」といえる児童の育成	a ビジョン (学校教育目標) 共に学び 進んで挑戦 思いやりいっぱい 甲山っ子 (めざす学校像) ○確かな学力をつける学校(基礎・基本の力、表現力) ○学びの環境を整え、安心・安全な学校 ○地域と連携し、信頼される学校 (めざす子ども像) ○課題を発見し、主体的に学ぶ子ども ○豊かに表現する子ども ○互いに認め合い、最後までがんばる子ども	(子ども達に育てたい資質・能力) 表現力・主体性・自信
---------	--	--	-----------------------------

評価計画				自己評価						学校関係者評価			改善計画				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案			
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ					
確かな学力	「生きる力」につながる基礎・基本の学力を身に付けさせる	基礎学力の定着を図る。	○標準学力調査の結果を分析し、短期目標を決めた学習指導に取り組み、CRTテストで学習指導の検証を行う。 ・ICT機器を活用した授業改善 (一人一台端末を使用し、主体的に学習に取り組めるよう意欲喚起を図り、思考が深まる授業を行う) ・甲山小授業スタイルの「学び合い」「まとめ」「振り返り」を大切にされた指導 ・ノート指導の充実と宿題の工夫 ・帯タイムを活用したドリル学習の充実 ・読書活動の充実(環境整備・読書目標等)	75%	国 (77%) 算 (85%) 理 (64%) 3教科平均 (76%)	国 (81%) 算 (81%) 2教科平均 (81%)	108%	A	・国語では、全国平均を上回った児童の割合は、1年(68%)、2年(95%)、3年(75%)、4年(94%)、5年(76%)、6年(78%)であった。算数では、1年(88%)、2年(84%)、3年(58%)、4年(83%)、5年(88%)、6年(88%)で、国算ともに6学年中5学年が目標を達成できた。eラーニングを利用して基礎学力の定着を図ったり、実践形式の問題を利用して思考力を育成するなどの取組が効果的であった。	○		○	・キーボード入力が前期より大幅に数値がアップしていることは、子ども達も大いに興味を持って取り組んだ成果だと思う。 ・ICTを活用した授業により、基礎学力の定着が図られ思考力の育成がなされていると感じる。 ・学力に個人差がある学年など、調査結果から課題を分析し、改善していかうという学校としての姿勢が見られる。	・3学期に向けて、学年のまとめをしっかり行っていく。特に、学力テストで課題のあった問題については、授業の中で復習し、確実に定着させる。また、得点率の低い問題については、再度実施して定着度を検証する。 ・来年度の学力調査に向けて、国算のみならず、理科や社会、英語についてもプリント等で復習させる。 ・eラーニングを積極的に活用し、自分の習熟にあった問題を解かせることで確実な定着を図る。			
	課題解決に必要な情報活用能力の育成を図り、その力を発揮させる。	○情報活用能力の体系表に示した資質・能力の育成をめざした授業、一人一台端末を活かし児童が積極的にICT機器を活用して課題解決を図る授業を実施する。 ・「映像コンテンツを活用した学習」「Gsuiteを活用した協働的な学習」「プログラミング」「情報モラル」の授業実践 ・児童が積極的にICT機器を活用して課題解決を図る授業実践	○「キーボー島アドベンチャー」において、到達目標を達成した児童の割合 (3年生…上半期 25級・下半期20級) (4年生以上…上半期 20級・下半期 15級) ○情報活用能力に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童の割合	3年生 75% 4年生以上 80%	3年生 (80%) 4年生以上 (92%)	3年生 (80%) 4年生以上 (95%)	110%	A	・12月を「キーボード入力強化月間」として、スキルタイムや国語科などで「キーボー島」を活用して、タイピング入力に取組んだ。高学年は、学校行事のカラタ大会と関連させて百人一首の早打ちに挑戦し、意欲的に取り組むことができた。 ・1学期の課題であった長文入力も中学年は10分間で200字後半から300字程度、高学年は5分間で200字以上を入力できるようになった。 ・各学年で情報モラルについての授業を行い、学んだ知識を学習活動に生かすことで情報活用のスキルを高めることができた。 ・ただICT機器を使うだけでなく、思考したり考えを伝え合ったりする際のツールとして使うように工夫した授業を行い、児童が自ら進んで友達と意見を伝え合う姿が増えた。 ・家庭へのChromebookの持ち帰りに毎月取り組んでいくので、操作スキルやルールを守ることに引き続き取り組んでいく必要がある。	○		○	・長文入力のスキルが向上してきたので、一言日記や、意見文など自分の考えを考えながら入力することにも取り組んでいく必要がある。 ・問われていることに対して、的確に論理的に文章で表現する力も、キーボード入力をしながら、発達段階に応じて育てていく。 ・持ち帰りの活用を職員研修で取り上げ、効果的な活用に取り組んでいく。				
	豊かな心	積極的な生徒指導を推進する	児童一人一人の自己肯定感を高め、自信を持たせる。	○あいさつ名人、MUGONマイスターを表彰し、手本となる姿を示して全体のレベルアップをめざす。 ・スモールステップで取組を行い、レベルアップを図る。 ・取組後のアンケートを実施し、自分の成長に気付かせ自信を持たせる。 ○児童会や高学年を中心として縦割り班で活動する場を設定し、協力して楽しく活動する中で、互いに認め合える集団づくりを進める。 ○児童が自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的に行動できるよう、児童会や高学年を中心として取組を進めていく。	80%	あいさつ 80%	あいさつ 80%	あいさつ 100%	返事 89%	返事 92%	返事 115%	アンケート (無言移動) 87%	アンケート (無言移動) 97%	○		○	・取組の意図が代表委員会などを通じて子ども達にしっかり伝わっている。 ・無言移動の指導にビデオを使ったのは効果的であった。挨拶など表彰によって意欲を高める方法も効果的であった。 ・学校以外の場所でも挨拶ができていたので、良さを更に伸ばしていかうほしい。
健康的な体	健康づくりや体力づくりを推進する	○児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。	○チャレンジ週間を設定して、「ノーマディア」を中心に取り組む。 ・ノーマディアの意義等を保健だよりに掲載保護者啓発を図る。 ・保健委員会を指導し「ノーマディア」に関心を持つよう委員会発表をする。	75%	67%	75%	100%	A	チャレンジ週間で夜8時からノーマディアができた児童の割合は9月63%10月57%11月72%12月75%であった。保健委員会作成の動画、パーフェクトの人のフッペン配付、名前の掲示などの取組で11月から達成できた人の割合が増えた。昨年度までの「9時まで」は12月93%が達成できている。しかし、1か月に1週間のチャレンジ週間以外では夜遅くまでゲームがやめられない児童の実態がある。	○		○	・昔と違い、早寝が守られない理由がテレビ視聴ではなく、ゲームやタブレットによる動画視聴になってきており、一人で夜更かしすることが容易な状況になっている。また、コロナ禍で自宅過ごす時間が増え、ゲーム機や情報通信端末に向かう時間が増えている。引き続き、生活習慣づくりの取組が必要である。 ・握力については、にぎにぎ体操などを継続して行い、握力の向上を図っていく。 ・引き続き、走り方や家庭でできるトレーニング、長距離走のタイムの記録を掲示することで、児童のやる気を引き出す。 ・体育の授業の前に、走力アップのためのトレーニング(ラダートレーニング)などを取り入れ、体の使い方を身に付けさせていく。				
		○基礎体力の向上を図る。	○握力や長距離走などの運動を、体育の授業や体育朝会時などに計画的に位置づける。 ・体育の時間に、走力・握力等を組み入れた「サーキットトレーニング(室内・外)」または「長距離走」(トラック2周)を走らせる。 ・週に一回、体育朝会を設定し、音楽を流す間、トラックを走る「長距離走」を継続的に行う。 ・にぎにぎボールコーナー等、児童が自主的に挑戦する場を設置する。 ○握力の甲山ギネスを掲示したり、「長距離走」で何周走れたかをカードの記録したり、定期的(4、5、6、10、11、12月)に長距離走のタイムを測定したりすることで、目標をもたせて、意欲づけを図る。	75%	握力 60% 長距離走 80%	握力 70% 長距離走 52%	握力 92% 長距離走 80%	115%	A	・握力の記録で県平均値を上回った割合は、1年生100%、2年生95%、3年生100%、4年生90%、5年生89%、6年生85%であった。全学年が目標値を上回っていた。前期に引き続き、にぎにぎ体操を継続したり、鉄棒運動に取り組ませたりしたことで向上した児童の割合が上がったと考えられる。 ・長距離走の5月の測定時よりも向上した児童の割合が1年生84%、2年生84%、3年生84%、4年生79%、5年生89%、6年生61%であった。6学年中、4学年が目標値を上回っていた。毎月、タイムが一番速かった児童とタイムが速くなった児童を掲示することで、児童の意欲づけに繋がった。また、児童と共に先生が走ることで、児童がペースを考えながら走ることができていた。	○		○	・クロームブックが全員に配付されメディアがより身近になったが、使い次第で健康に害を及ぼす。引き続き、使い過ぎは健康によくないことを保健委員会と一緒に児童に指導していく。 ・成長期によりよい睡眠を得るために就寝する1～2時間までにメディアを消すことは健康づくりに役立つことを児童保護者に啓発していく。			
子供間との向き合い	学校における働き方改革の推進を図る。	○児童の自己肯定感の高揚を図り、自信をもたせる。 ○やりがいとつながりのある職場づくりを推進する。 ○日常的な業務改善を推進する。	○肯定的評価と積極的な生徒指導を推進するとともに、丁寧で適切な保護者連携を日常的に行う。 ○児童実態等に係る「ハウレンソウ」の徹底を図るとともに、職員同士のコミュニケーションを大切に、情報の共有化を図る。 ○業務や行事の精選・重点化・省力化、環境面等に係る業務改善を推進するとともに、スケジュール管理により見通しを持って業務遂行ができるようにする。	100%	100%	100%	100%	A	・4月から12月までの期間で、時間外勤務時間が45時間を超える職員は0名だった。児童への肯定的評価や積極的な生徒指導の取組や細やかな保護者連携を日常的に行ってきたことにより、生徒指導上の問題が少なかったことが大きい。また、職員同士の情報共有ができ、児童実態等に係る「ハウレンソウ」が徹底できている成果である。 ・水曜日の定時退庁を継続し、月30時間(年間360時間)を超える職員を減らしていけるよう、さらに業務改善を進める必要がある。	○		○	・働き方への意識改革を職員間で共有し、実践していることは十分評価できる。引き続き、時間外勤務時間の短縮を図る努力を続けてほしい。 ・生徒指導の充実が業務改善につながっている好事例である。	・3学期以降も業務や行事の精選・重点化を図り、業務改善を推進するとともに、スケジュール管理を継続し時間外勤務時間が月30時間以内になるように働き方改革を推進する。			

【自己評価 評価】
A：100≦(目標達成)
C：60≦(もう少し) < 80

B：80≦(ほぼ達成) < 100
D：(できていない) < 60

【外部評価】
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。